

シラバス参照

<<最終更新日:2014年02月23日>>

時間割情報

授業コード	220481(知のジ ム ナスティックス 科 目)	開講区分	1学期	曜日時限	木6
開講科目名	現代中国研究			教室	
開講科目名 (英)	Issues and Research on Contemporary China				
単位数	2				
年次	1,2年				
担当教員	田中 仁				

詳細情報

授業の目的	今日の東アジアは、中国のグローバル大国化や日中関係の曲折などによって新たな局面を迎えている。このような21世紀東アジアと中国の現況と趨勢を的確に理解するためには、中国20世紀史や国際政治・経済学など複数の視点の獲得が不可欠である。本講では、各研究科に所属する教員がそれぞれの専門分野から現代中国研究に関わる論点を提示することによって、歴史学の総合性と地域研究の学際性の架橋をめざす。
履修条件・受講条件	特になし。
講義内容	<p>本講義は大きく分けて2つの部分から構成される。前半「20世紀中国の射程」は、中国現代史の視点から、中国に対する多角的な見方の前提となる中国の歴史的変遷、および外部との関係において見えてくる広義の中国文化システムについて論ずる。後半「21世紀の中国と東アジア」は、環境、衛生、文化、言語、経済、外交、安全保障の7つの視点から、未来志向の中国像さらには中国と日本・東アジアとの関係について考察する。</p> <p>(1)20世紀中国の射程 ①漢族と非漢族をめぐる史実と言説[片山剛, 文学研究科], ②「民族」概念を使いこなす[木村自, 人間科学研究科], ③博覧会における「文明」と「野蛮」の階梯(福田州平, グローバルコラボレーションセンター), ④経済成長の中国史(田口宏一朗, 文学研究科), ⑤日中関係の転機と歴史叙述[田中仁, 法学研究科], ⑥中国における「裁判」の理念・役割、そして限界?[坂ロー成, 法学研究科], ⑦「華僑」「華人」と東アジアの近代[宮原暁, グローバルコラボレーションセンター]</p> <p>(2)21世紀の中国と東アジア ①中国の開発と環境[思沁夫, グローバルコラボレーションセンター], ②食の安全・安心・信頼[三好恵真子, 人間科学研究科], ③中国ロックに見るワールドインパクト[青野繁治, 言語文化研究科], ④ことば、歴史、アイデンティティー-台湾映画『海角七号』をめぐる[林初梅, 言語文化研究科], ⑤「経済大国」化する中国のインパクトと新たな成長へのジレンマ[許衛東, 経済学研究科], ⑥アメリカの戦後台湾政策[高橋慶吉, 法学研究科], ⑦過渡期にある中国の核戦力と核戦略[竹内俊隆, 国際公共政策研究科]</p> <p>【すすめかた】 ○「序論」および「20世紀中国の射程」「21世紀の中国と東アジア」各7回の15回です。 ○毎回、基本的に講義50分・討論40分とし、討論はあらかじめ示した「Guiding Question」をもとに行う。 ○受講生はあらかじめテキスト『現代中国に関する13の問い—中国地域研究講義』(続編をふくむ)の当該部分を読んでくることとし、そのことを前提として50分の講義を行なう。 ○「20世紀中国の射程」(前半)と「21世紀の中国と東アジア」(後半)における7つの「Guiding Question」からそれぞれ1つを選択し、レポートを作成する。</p>
教科書	○『現代中国に関する13の問い—中国地域研究講義』(大阪大学中国文化フォーラム編, OUFCCブックレットvol.1, 2013年) ○『現代中国に関する問い』続編((1)④,(2)④, 大阪大学中国文化フォーラム・ディスカッションペーパーとして刊行予定)

参考文献	○『共進化する現代中国研究—地域研究の新たなプラットフォーム』(田中仁・三好恵真子編, 大阪大学出版会, 2012年) ○台湾映画『海角七号』((2)④)
成績評価	○平常点30%(出席状況と討論への積極的な参加), 二回のレポート70%(各35%)
オフィスアワー	
コメント	理系・文系を問わず, 留学生を含めた全学からの参加を期待しています。中国を研究対象としている人は言うまでもなく, 中国研究についてあまり関心をもってこなかった人, 中国に関心はあるが中国語に不安を感じている人も歓迎します。

授業担当教員

教員氏名	ふりがな	内線	e-mail
田中 仁			tanakahi@law.osaka-u.ac.jp

授業計画